



食糧備蓄実験～ムロ体験



▲土の中に食糧を埋めました

ムロとは・・・

ムロとは、土を掘って野菜などの食糧を保存するいわば地下冷蔵庫で、冬は冷蔵庫と同じくらいの温度になります。今回のムロ体験では、食糧を直接土に埋めたり、新聞紙やビニール袋でくるんだ後に、プラスチックケースに入れて土に埋めたりして、食糧の備蓄方法を実験することにしました。

平成17年11月、実際に畑を借り、たくさんの種類の食糧をこれらの方法で土に埋めました。



▲春。ムロを開けてみます

なぜムロ体験をしたの？

冬、とても寒くて雪がたくさん積もる札幌で、大地震などの災害が起こったらどうなるでしょうか。雪の影響で救援物資が簡単には届かなくなったり、停電したりするかもしれません。そこで私たちは「自分たちの力で一週間程度は生きていけるように、冷蔵庫などが使えなくても食糧を貯蔵できる知識を身につけたい」と思い、自分たちでムロを作ろうと考えました。



▲開けたムロの中。保存にふさわしいのは？

ムロの中の食糧はどうなったのかな？

食糧を埋めてから一冬越えた平成18年4月に、土を掘り起こしてムロを開けました。半年も食糧を冷蔵庫に入れなくて、ただ土の中に入れていただけなので、傷んでいないか心配でした。ところが、結果は大半の食糧は食べられる状態でした。また、食糧をビニール袋に入れると腐りやすく、新聞紙でくるむと腐りにくいことも分かりました。

ムロでの保存結果(一部抜粋)

(○は無事だったもの。×は腐ってしまったもの)

<土に直接埋めたもの>



<プラスチックケースに入れて埋めたもの>



じゃがいも、たまねぎ、キャベツなどには根が少し出ていたし、にんじんなどには芽が出ているということは、土の中で生きていて新鮮なんだということが分かりました。

一番驚いたのは土の温度です。冬に雪が積もっている間もなんと4～5度に保たれていて冷蔵庫と同じだそうです。これなら野菜が凍らないので大丈夫だと思いました。



手稲

